

な お は 奥 式 お か た ら 測 ま 物
 り 知 ま 、 行 放 願 く こ れ 。 3 定 ま) 市
 ま ら た そ 30 射 い き れ 。 力 装 測 を 細
 し せ の cm 能 し ぎ ま の を で か く 、 食 材
 た す 測 ま 、 測 て ん で の 測 導 き く き 食 材
 。 定 ま 高 定 い で の 測 定 入 り 非 ぎ 食 材
 ま 時 測 さ 装 ま 持 参 定 所 し 破 ま ず (自 家 用 農 産
 で 間 定 18 置 し 参 定 所 し 破 ま ず (自 家 用 農 産
 の や 測 で き ま す 。 幅 非 く は 、
 時 測 未 満 の 幅 非 く は 、
 間 定 も 結 果 を
 短 果 を
 く を



▲非破壊式放射能測定装置の説明を受ける高松市長

非破壊式放射能測定装置を導入!

きざまずに測定できます

これまでのきざんで測定する装置による測定も継続していただきます。申し込みの際に、どちらを希望されるか、お申し出ください。

【測定所】

- ▽本宮市放射能除染・モニタリングセンター
 本宮字万世26-3
 ☎631-2682
- ▽白沢測定所
 和田字石上127
 (白沢老人福祉センター内)
 ☎441-2706
- ▽荒井測定所
 荒井字茶園5
 (荒井地区公民館内)
 ☎241-8781



▲非破壊式放射能測定装置

■「きざまずに測定」と「きざんで測定」の違い

	きざまずに測定	きざんで測定
必要な量	500グラム以上	500グラム以上
持込方法	水洗いで泥や土、汚れなどを落としてください。 幅30cm×奥行30cm×高さ18cm未満のものは、そのまま測れます。 これを超える場合は、測定器に入る大きさにカットして持参してください。	水洗いで泥や土、汚れなどを落としてから、細かくきざんで持参してください。
測定時間	10分～20分程度 ※測定結果をお渡しするまで、30分程度かかります。	30分～50分程度 ※測定結果をお渡しするまで、1時間程度かかります。
検出限界値	25ベクレル/キログラム	10ベクレル/キログラム

■市内自家用農産物の持込み 全9品目【平成27年2月分】

No.	品名	件数	検出されたものの内訳			
			検出数	最小値	最大値	100ベクレル以上の検出数
1	大豆	19	6	11.96	20.45	0
2	茎立菜	2	0	-	-	0
3	大根	1	0	-	-	0
4	人参	1	0	-	-	0
5	ネギ	1	0	-	-	0
6	白菜	1	0	-	-	0
7	ほうれん草	1	0	-	-	0
8	干し大根	1	0	-	-	0
9	味噌	1	0	-	-	0

※最大値がキログラムあたり100ベクレルを超えた品目はありませんでした

◆問い合わせ先

放射能除染・モニタリングセンター
 ☎631-2682

【本宮市で摂取・出荷等が制限されている主な農産物等】
 出荷制限…大豆、タケノコ、たらの芽（野生のものに限る）、コシアブラ、原木シイタケ（露地）、野生キノコ（菌根菌類、腐生菌類）
 ※平成27年2月27日現在のもの
 であり、詳しい内容は福島県「ふくしま新発売」のホームページをご覧ください。



平成27年
 3月11日発行
 本宮市
 秘書広報課
 広報広聴係
 ☎24-5332

No.52

【市からのお願い】広報もとみや号外は、地震災害、放射能問題など市民の皆さんに広く周知するものについてお知らせしています。閲覧される場合は、なるべく早く次の方に回覧していただきますようお願いいたします。

中学生以下の子どもと妊婦の皆さんの ガラスバッジ測定結果を お知らせします

平成23年9月から、中学生以下の子どもと妊婦の皆さんがガラスバッジを着用し、積算線量を測定しています。平成26年度2回目（9月・10月・11月）の測定結果がまとまりましたのでお知らせします。

平成26年度2回目の測定結果について

ガラスバッジ回収人数は3711人で、最小値は検出限界値未満、最大値は0.50ミリシーベルト、全体の平均値は3カ月で0.11ミリシーベルトでした。

これまでの結果について

ガラスバッジによる線量の測定を行った平成23年9月から平成26年11月まで、3カ月ごとの平均値の比較は、次のようになりました。

◆問い合わせ先

保健課（えぼか内）
☎ 6312780

■ガラスバッジ平均値の推移（ミリシーベルト/3カ月）

平均値	平成23年度	9 ~ 11 月		0.42ミリシーベルト
		12 ~ 2 月		0.34ミリシーベルト
平均値	平成24年度	6 ~ 8 月		0.27ミリシーベルト
		9 ~ 11 月		0.23ミリシーベルト
平均値	平成25年度	12 ~ 2 月		0.20ミリシーベルト
		6 ~ 8 月		0.19ミリシーベルト
平均値	平成26年度	9 ~ 11 月		0.16ミリシーベルト
		6 ~ 8 月		0.14ミリシーベルト
平均値	平成26年度	9 ~ 11 月		0.12ミリシーベルト
		6 ~ 8 月		0.11ミリシーベルト

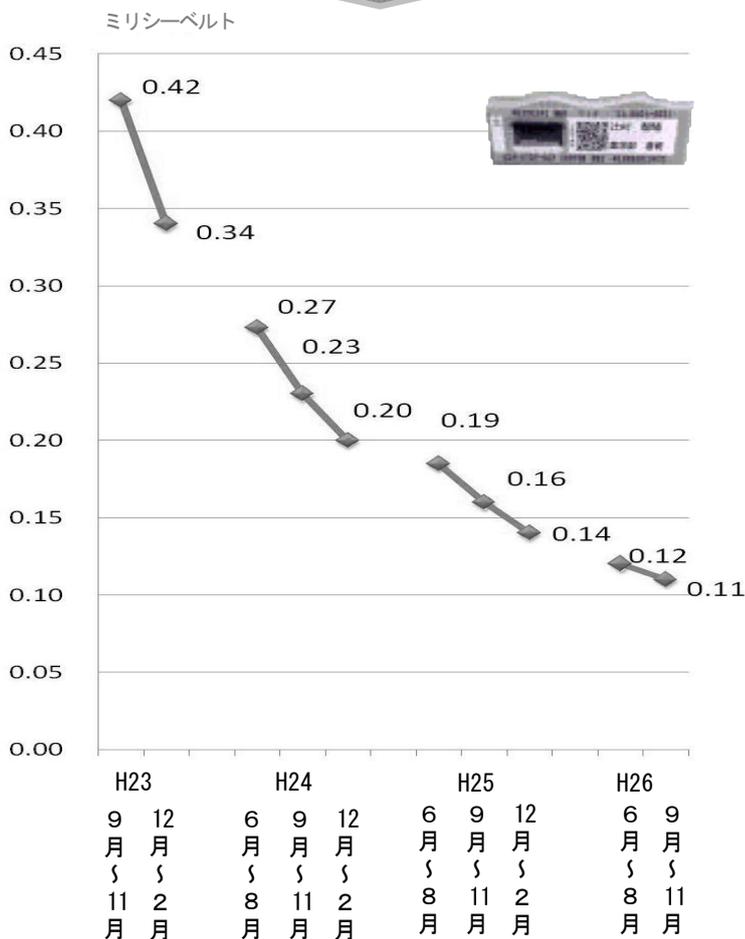
この結果から、本宮市放射線健康リスク管理アドバイザー野口邦和先生より次のとおりアドバイスをいただきました。

野口先生のアドバイス!

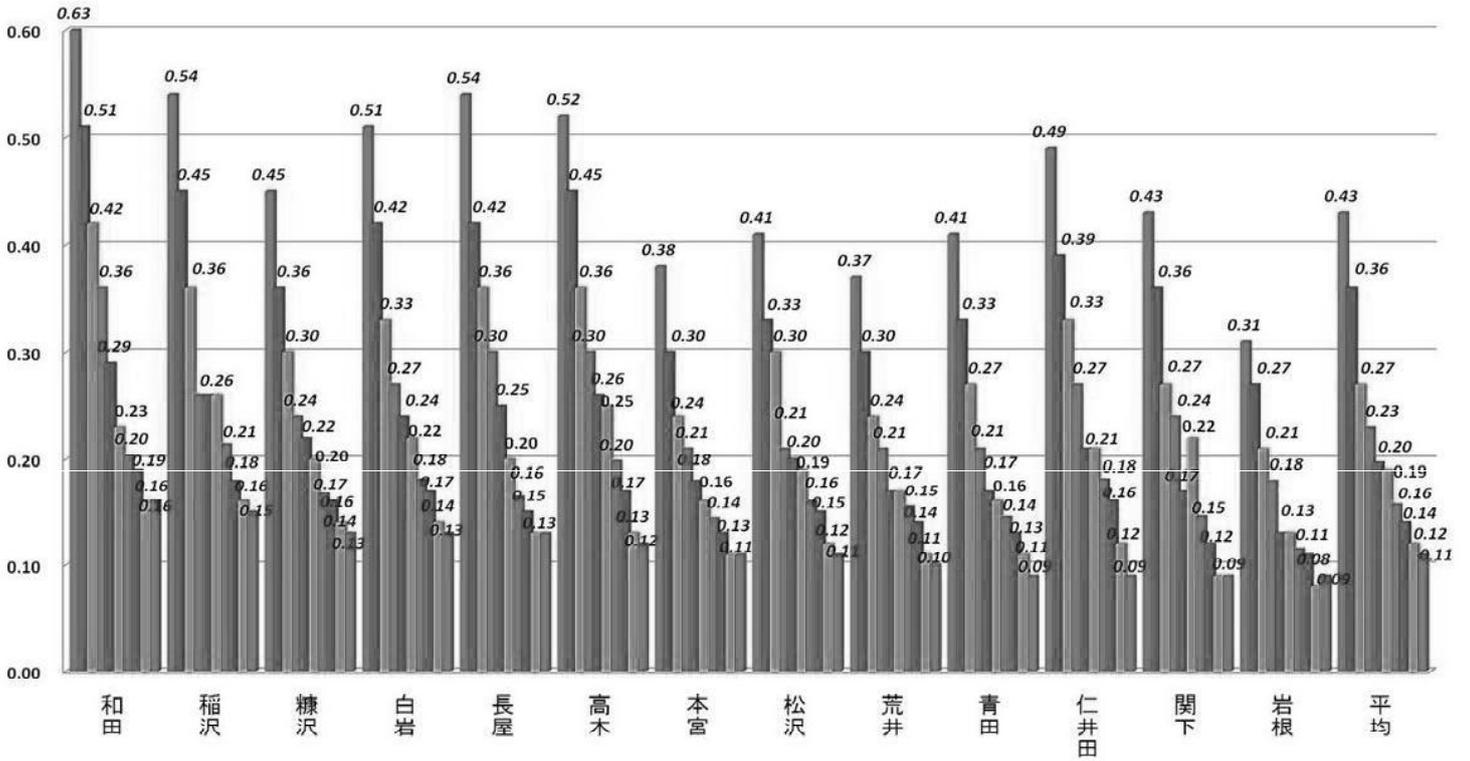


3年前の同じ時期の測定値と比較すると、平均値はおよそ4分の1にまで減少しています。

平均値が大幅に減少しているのは、除染対策の効果が現れているからです。今回の平均値は平常時における一般人の国際勧告値である年1ミリシーベルトを大きく下回っており、十分に安全で安心できる値です。



■地域別ガラスバジ測定値（3カ月平均値）の推移（マイクロバルト/3カ月）



【棒グラフの説明】

左から平成23年度9~11月、平成23年度12~2月、平成24年度6~8月、平成24年度9~11月、平成24年度12~2月、平成25年度6~8月、平成25年度9~11月、平成25年度12~2月、平成26年度6~8月、平成26年度9~11月の順の3カ月平均の測定値



▲高松市長（右）より辞令を受ける根本郡山北警察署本宮分庁舎所長

本宮市防災会議を開催しました

2月27日に本宮市防災会議が開催されました。これは、本宮市地域防災計画の全面的な見直しに伴い、その計画の内容について、国土交通省をはじめとする関係機関より、市長が任命する防災会議委員22人で審議するために開催されたものです。

今回の防災会議では、平成21年3月に策定した本宮市地域防災計画を、その後発生した東日本大震災、東京電力福島第一原子力発電所事故などを踏まえ、

そのほかの修正と併せて見直しを行いました。

また、防災会議の委員に、市長の高松市長より辞令が交付されました。

【本宮市地域防災計画の修正概要】

想定される各種災害の多様化や東日本大震災の教訓を踏まえ、市民の命を最優先とした「安全・安心」を確保するために、災害時の初動対応の見直しと、東京電力福島第一原子力発電所の事故に対応するため、原子力災害に対処する備えを新たに追加しました。

今回の主な修正点は、地域自主防災組織の推進や広域連携による災害対応力・災害対策本部の強化、平常時のネットワーキングを通じた災害対応と防災の視点を加えたまちづくり、男女双方の視点に配慮した防災対策、市民運動の展開を基本方針とし、情報連絡体制の強化や住民避難対策、物資の確保などの修正を行いました。

◆問い合わせ先

防災対策課
24-5365

